

特集 昭和37年度NHK全国学校音楽コンクールを顧みて

全国唱歌ラジオコンクール優勝校

大阪府堺市立三国丘中学校

長かった苦闘の日を思う

教諭

上野 経一

(カット写真は表彰式)

学校紹介
三国丘中学校は生徒数約三千、職員八十余名を数え、府下でも大世帯の学校であり、高校進学志望者も約九割以上を占め、いわゆる「進学の学校」と噂されている学校です。

私がこの学校に赴任しました翌年の昭和二十七年に初めてコーラス部を設けました。

コーラス部を設けた理由

我が三国丘中学校は前にも述べましたように高校進学者が多く、従って知的面の学習に重点がおかれ、音楽科等の特殊学科でも技術面が軽視された状態でありましたので、クラブにコーラス部を設けそのクラブにおいてコーラスを盛んにすることによって学校全体の音楽熱の昂揚につとめたいと思いたち、コーラス部を創設したのです。

コーラス部の指導目標

クラブである以上、コーラスの基礎的訓練に重きをおくことはもちろんであります。それと併行して次の二点にも意を注ぎました。

1、「楽しいクラブ」であること。
2、クラブ活動を通じ「人間形成」に留

1については今更私がここでくどくどと申し述べる必要もないことですが、効を急ぐの余り「テクニクの向上」のみにはしり過ぎますとつい、そこに無理が生じ「堅苦しい、イライラした練習」の連続となり「楽しいクラブ」どころか却って逆効果を招くことになり、遂には悪くすると「解散」という寂しい終幕になりかねないと思います。

そこで私は今日までの十一年間、ごく平凡なやり方ではありますが、次のような方法をとってまいりました。

厳しくやる時には容赦なくやり、厳しく練習した後には、時折りリード格の生徒二、三名を一組にして、音頭をとらせ練習を研究的にやらせたり、またある時には臨機応変に「冗談」を飛ばして生徒達の緊張感、恐怖感等の緩和を図りました。申すまでもなく学校は如何なる場合でも「教育の場」であって総て教育的であるべきであると思えます。

従ってクラブであるからと云って自己中心的な行動は厳しく戒めるべきです。多くの生徒達の中で「クラブ」なるものを真に理解し行動している者が幾人いるでしょうか。おそらく「皆無」と云って

きまして私は入部希望者には次の点を良く理解し、確約でき得る者のみの入部を許可しております。

(イ) 保護者の承諾ある者

(ロ) 一日一回は如何なる場合でも練習に参加できる者

(ハ) 入部の上は如何なる理由があろうとも中退は認めぬ。

但し人間である以上思わぬ事態に会わぬとも限りません。その節にはありのままを正直に申し出て、よく話し合い「退部も当然」と認めた者はこの限りにあらずです。

(ニ) 技術の向上と相まって人間的にもより良く成長するよう努力する。

(ホ) 遅刻、欠席者はその都度、その理由を直ちに届け出る。

「人間形成」なる面では次に述べますような、日常遭遇するごく身近な事柄を守ることを第一としております。

(イ) 部員は上学年下学年、男女を問わず一族のような気持でお互いによく打ち解け合い仲良くし、助け励まし合う

(ロ) 挨拶は先生、友人、外では家族の者近隣の人々に会ったら気軽にできるよう心掛ける。

(ハ) 言葉使いも乱暴にならぬよう、身だしなみにも注意し、常に中学生らしい「清潔感」を失わぬよう心掛ける。

(ニ) 練習には如何なる理由があろうとも必ず出席し、決して自己中心に行動をしない。多少辛いこと、面白くないことがあってもできるだけ我慢し、意志

の強い人間になるよう努力する。等々

練習の方法

練習法と申しましたが、技術面と練習の時間等に分れると思ひますので、こゝでも二つに分けて述べることにします。

A 技術面の練習について

(イ) 発声は柔らかくて丸味のある明るい声を目標に(特に高音の力の発声に留意したのですが、お聴き下さったように大変お聴しい発声に終りました)

(ロ) ピッチを正確に

どんなに発声がよくても音程に正確さを欠いては音楽の本質にもとると考えております。

(ハ) 各パートのユニゾンを手上に

コーラスである以上、ハーモニーに留意することは当然であります。それと同様各パートのユニゾンを重視すべきだと思ひます。

(ニ) 年間の練習曲は少なくし、一曲一曲をできるだけいねいに詳しく練習して、他の曲にもいろいろなテクニックが直ちに應用できるよう努力する。

(ホ) 楽譜を見て、この曲はよさそうだと思われても実際歌って見て案外好みに合わぬ曲がままあるようです。そんな場合でも少なくとも七分程度位までは仕上げから他の曲の練習に移ることにしております)

御参考までに二年間のレパートリーを記しておきましょう。

三十六年度(混声13 女声9)

三十七年度(混声10 女声3)

本年度は昨年度に比し少し減っていますが、混声はこれから本学年度末までに

三、四曲、女声は一、二曲練習する予定でおります。

(ホ) 子音を明確に

特にH行とK行及び鼻濁音に注意を払いました。

(ハ) 「迫力のあるコーラス」を終目標とする。

B 練習時間等に関して

(イ) 一日一回は必ず練習を行う。

練習時間は四月から十月末頃までは毎朝始業前四十分と昼休みの約二十分を行、原則として放課後は行わないことにしておりますが、コンクールや音楽会等が近づいてきますと隔日位に男女別、あるいはパート別等に分けて放課後の練習を実施します。

なお三年生の進学問題もあり、その点も考慮に入れました。たとえば放課後、ソプラノパートを二十分間位練習している間に隣の教室等で他のパートは本日の宿題等の学習をやらせる等、できるだけコーラスの練習のために他の学科の学習に無理をきたさぬよう留意しました。

(ロ) グループの練習も重視

上下学年を混ぜた六〜七名を一組にするグループを編成し、一週一〜二回各グループ別の練習をグループのリーダーを中心に練習を行う。

(ハ) 出欠遅刻を明確に記入し、欠席や遅刻をした者は必ずその理由を届け出る

苦心について

この点になりますと毎年毎年、身を削られる思いの連続でした。数ある中から特に苦心しました点や思い出等を二、三

述べることに致しませう。

1、部員の出席について

この点につきましては皆様方もひとしく苦い経験をお持ちのことと存じます。合唱団が成功するか否かは一つにこの出席如何にかかっていると申ししても決して過言でないと思ひます。部員の出席が良好であればこの合唱団は半ば成功していることになると思ひます。

2、出席の問題と、直接関連するものに「高校進学とクラブのあり方」「学校当局および父兄のご理解と協力」等の問題があるのですが、これらの問題について「如何にすれば摩擦が少なく練習効果をあげることが出来るか」と云うことでした。このことにつきましては皆様方も常に頭を悩まされておられることと思ひます。特に「進学の学校」とまで呼ばれている我が校のような学校ですと、この問題は真実、深刻な問題であります。

あることを完遂するには、確固たる信念のもとに立脚した強い意志と、他からのいろいろの中傷等も意に介せず常に目的を忘れずその目標に向って邁進する勇気のある人でなければならぬと思ひます。(このように申しますといかにも私にそれが該当する人間であることを吹聴しているように思われるかも知れませんが、決してそんな意味のことを申し上げているではありません)

3、コーラスの指導面では、毎年三国丘中学校のコーラスは「特別に取り上げて欠点をあげることはないが何かしら迫力に欠けている。ちょうど「コテ」で綺麗

ねがいを果して

校長 村上英雄

昨年度、毎日新聞の「全日本学生音楽コンクール」と、MBSの「こども音楽コンクール全国決勝大会」合唱の部に優勝できましたが、NHKは駄目でした。トリプル・クラウンとまでは無理でも、何とかして、NHKの「全国学校音楽コンクール」に優勝したい大阪府が小・中・高校を通じて、まだ果たしていない夢を、本校が果たしたい。これが、本校職員生徒父兄のねがいであり、また、熱烈な指導者上野経一教諭の悲願でもあり、コーラス部員一同の夢でした。この夢のため、過去十年にわたって、生徒三千、進学率九十三%という学校が、特に入試の苛烈な大阪地方で、避けることのできないはげしい教科指導の合間を縫って、上野先生と部員一同が本当に一九となって、それこそ、暑い日も、寒い日も、鍛えに鍛え、練りに練った成果が、今ようやく、実を結びました。「全国第

一位」の発表を聞いて、躍り上った生徒達、涙にぬれた上野教諭の顔、テレビニュースそのまま、長い長いねがいのむくいだったことが御了解頂けると思っています。

一教科に片寄らない学校経営、これが方針です。音楽とて例外でありません。どれもしっかりやってくれるように。今、大阪府最優秀で全国審査に廻っている「読書感想文コンクール」の結果を待っています。「一業精進」これが毎年卒業生におくる、はなむけの言葉です。ただ、その道に精進すれば「一芸に秀ずるものは万芸に通ず」こうして、何かにひたすらに励んだ人達は、きつとどんな方向に進んでも立派にやっけていってくれるでしょう。今日もまた、校舎の片隅から、あの音楽部の部室から、日本一のハーモニーで、美しいメロディーが流れて来ます。

お祝いのごとば

PTA会長 棚橋 馨

今回NHK全国音楽コンクールに、

に塗られた壁のようで、ただ「美しい」と感じられる」と云うご批評を頂いておりましたので、本年こそ「多少荒くてもよろしいから生き生きと、伸び伸びとした感じ」をもったものにししたいとの目標のもとに動いまいりました。

けたような感もいたしますが、反面従来私の学校の特徴の一つである「きれいなハーモニー」(大変な自惚れですが)なる点が幾分薄らいだような感じのコーラスになってしまいました。あつちを立てればこつちが立たずで、ちょうど壊れた

中学の部第一位の栄冠を獲得したことは本校はもちろん堺市の名譽であって心からお祝い申し述べます。これは一重に先生の長年月に亘る熱心な御指導と、音楽部員の不断の精進と、父兄の御理解の結晶でありまして、関係各位に深恩の謝意を表します。

古来当堺市は、文化の古都でありましたが、終戦後はごつごつした工業都市に変わってしまいました。今回の優勝は、市民に祖先の血を想い起こさせ、その生活に一層の「湿い」をもたらす導火線となるでしょう。

思い出のために

コーラス部長

三年 泉谷 吉三

サンケイホールでの発表会は「全国一」というより「東京へ来た」という実感が強かった。それでも、やはり優勝旗を手にした時は、過去のきびしかった練習や、みんなで楽しくコーラスした時のことを思い出していた。多くの先輩が築いた基礎を土台にして、や

情なくまたお恥しく思っている次第です
4、コンクール参加者の人選について

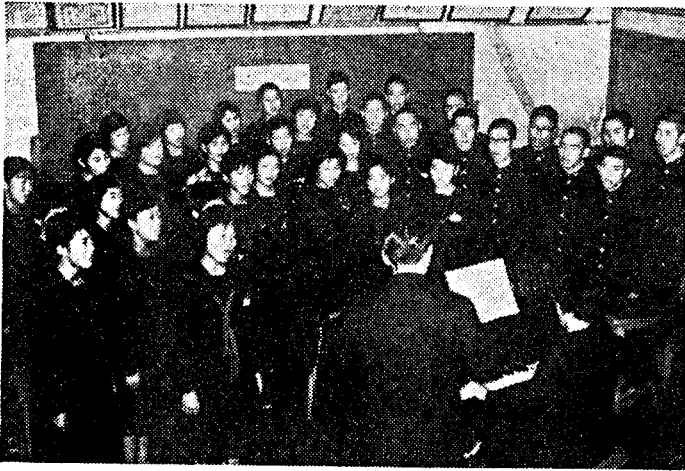
この件でも毎年相当頭を悩ませられます練習態度も熱心、技術も秀いでている者でしたら文句ないことですが、たいいてい場合「ドングリの背くらべ」ですの

つと念願がかなったのだと思うと今回の成績の価値もわかるような気がする長い練習期間には色んな問題もあった。その一つが、進学のための勉強とクラブ活動の調整であった。しかしぼく達は、クラブ活動が勉強の障害になつたことを感じたことはないし、そんな話を聞くたびに疑問をもつ。ぼく達のコーラス部も練習中は、部員は全てのことを忘れてコーラスできるようになつてきている。練習が、時にはつらかったり、いやになつたこともあったが、それもいつかは、きつと楽しい思い出になることを信じている。



それで次の条件のもとに人選を行つてまいりました。

各コンクールごとに幾度も、課題曲、自由曲についてテストを行う。この際審査は他のパートの者、コーラス部の卒業生数人に来て貰い、それに私も加わつて



(三国丘中学校コーラス部)

してでありまして、この外に日常の態度および人によっては「出来」「不出来」が非常に差がある者もあり、ある時には実に立派であり、ある時には全然別個の人間かと思われるほど拙い歌い方をする者がありますので、それらのことも考慮に入れ、最後のにと申すより一応仮の正メンバー並びに補欠を決めます。正メンバーであると云う最後の決定は当日発声のテストや態度等によって最後の決定をしました。

当日の態度と申しますのは、コンクール等の当日は朝練習を軽く行う習慣にな

っておりますので、その練習に遅刻する者もよくあります。それらのことなどを意味します。

立派な成績をあげ得て

お蔭様で、NHKコンクールにおいて「全国第一位」と云う輝かしい栄誉を頂きまして、部員はもろろん、学校をあげて喜んで頂いております。今日のこの日を目指して努力してまいりました長かった十一年間の苦勞も、東京でのあの晴れの表彰式に生徒達が優勝旗を手にし歓喜に溢れたあの輝かしい姿を見た瞬間、そして校長や市長から「ほんとうによくやってくれましたね。御苦勞でした」と温い心のこもった握手を求められたあの瞬間に、今まで

の長い長い苦勞も一瞬に吹き飛んでしまい、教師としての喜びを心から噛みしめることができました。

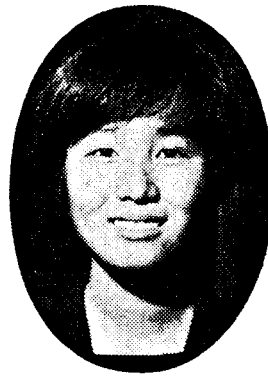
前にも述べましたように、クラブを創設した目的は、コンクールに優勝することのみが念願ではなかったのです。学校の音楽熱昂揚に資するのが目的でした。

全日本学生音楽コンクールや子供音楽コンクール等の全国大会では計八回優勝、文部大臣賞状も三回ほど頂いておりますがそれらが全校の生徒達の刺激となり、年々音楽に対する関心も高まり、最近では生徒達が自発的に昼の休み時間に選曲したレコ

ード音楽を放送しており、創作も数回NHKの学校放送の時間に取上げられ放送されるほどになりました。

やはり私のねらいは間違っていないかと確信しております。

今後は、この優勝を機に、学校全体のクラブ活動を通じ、また皆様方の御教示を仰いで音楽教育に邁進致したいと思っております。



伴奏を担当して

三年 鈴木美佐子

私が伴奏をするようになったのは、今年の初め、三年生が卒業する少し前でした。それまではみんなと一緒に歌っていました。

NHKのコンクールに出たメンバーの中には、三年生になってから入部した人もたくさんいます。たった半年で、こんなに歌えるようになるまでには、いろいろのことがありました。毎日二時間の練習、それも初めのうちは、先生が御出張などで休まれたら、私を中心に、部長

副部長、そして各パートのリーダーの人達によって、練習をする事になっていましたので、先生が休まれた日が、一番こわく感じました。どんなふうに注意をしようか。とか、私達はこれで良いと思うけれど、先生はどう思われるかしら、とか、次に何を練習しようか。などと考えて、各パートのリーダーの人達と相談して、結局要領を得ずに終わってしまったことが何度ありました。

でも、いつも苦しいばかりでなく、嬉しいこともたくさんありました。

昨年までは、私もみんなと一緒に歌っていたのですが、伴奏者として、NHKの大阪府大会に初めて出場し、一位となり、近畿大会、そして全国大会、と出場できたことは、歌った時と違い、数段と嬉しさが増えました。

「全国第一位は、近畿代表、堺市立三国ヶ丘中学校」とニュースが伝えた時、ただ嬉しくて「嬉しい」という一言しか出ませんでした。第二位の発表も、皆の大きな声で、どこの学校が二位になったのか、全然わかりませんでした。

卒業生の方達も、一緒に聞いていて下さって、とても喜んで下さいました。今でもあの時の感情、一分一分とニュースの時間を待った時のことが、思い出せます。

そして「優勝できたのも、部員だけの力でできたのじゃなく、みんなの先輩が積み上げた力、そして先生方、父兄の御協力にも、感謝しなくてはならない」といつも上野先生に、言われています。